

令和2年度 第1回稲美町まち・ひと・しごと創生推進委員会

- 1 日 時 令和2年11月17日（火）10時00分～11時45分
- 2 場 所 総合福祉会館 2階ホール
- 3 出席者
委 員 田端委員長、福井副委員長、唐木委員、井上委員、伊藤委員、盛岡委員、河南委員、村上委員、近藤委員、石井委員、佐藤委員、村下委員、繁田委員
欠席者 大西委員、森藤委員、田中委員、
事務局 藤田浩之、井上勝詞、赤松嘉彦、丸山善之、穴田雄暉、コンサルタント1名
- 4 会議の概要
 1. 開 会
 2. 町長あいさつ
 3. 委嘱状の交付（新規委員）
 4. 委員長あいさつ
 5. 審議事項
 - （1）総合戦略・人口ビジョンの概要について
 - （2）住民アンケート調査 調査結果報告書について
 6. その他
 7. 閉 会

5 会議録

【1 開 会】

【2 町長あいさつ】

町 長：本日はお集まりいただき、ありがとうございます。昨年に総合戦略の計画期間を延長し、今年度から総合計画の改訂に併せて策定していく。現在、人口問題が非常に顕著で、稲美町は、令和元年度は転入が転出を上回る「社会増」(+36人)となったが、一方で死亡者が出生を上回る「自然減」(-171人)となっており、プラスマイナスすると100名以上が減少している。

様々な施策が功を奏してこの程度で食い止められているが、今後とも人口減少傾向の抑制を目指して取り組んでいく。東京都では今年5月に初めて「社会減」になった。これは新型コロナウイルスの関係で、テレワークや働き方の改革、住まいに対する考え方の変化が非常に影響したのではないかと思われる。このような社会情勢も含め、稲美町の将来性についての協議をお願いする。

【3 委嘱状の交付】

（町長より、新任委員への委嘱状の交付）

（委員、自己紹介）

【4 委員長あいさつ】

委員長：先程、町長から社会増という話が出た。この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、いかに人口を増やすのかということがテーマになっている。国におけるテーマは、1つ目は仕事を作って人を動かすこと、2つ目はいかに多様な人が住めるかというテーマに変わってきている。外国人も含めて、この地域に住む人を増やし、まちづくりに参加してもらおう。そして、その人たちが住むことによって新しく仕事ができることを目指す。今までは「仕事を目指して人が来ていた」が、「人を呼び込んで仕事をする」ことに、意味合いが変わってきている。稲美町は、後ほどアンケートでも出てくると思うが、災害も少なく、住みやすいとよく言われている。いかに人を集めて、その人達がまちづくりや仕事づくりをしていくかがこれからの課題。今日は本当に多くの皆様に集まっていたので、それぞれの立場から、さまざまな意見を出していただければと思う。

(欠員になっていた副委員長に福井委員が委員一同の承認を得て決定。)

【5 審議事項】

(1) 総合戦略・人口ビジョンの概要について

・事務局より、資料1の説明

(質疑応答)

委員長：稲美町では調整区域が多いが、そこをもう少し住宅地にできないか。なかなか簡単には改定できないと思うが、それで若い世代を呼ぶなど、もう少し色々な夢を持った動きができればと思う。

委員：都市計画の話もあったが、盛んに分譲をしてきたことが社会増の要因になったと思う。稲美町は、合計特殊出生率は低い、子どもが多い印象がある。子どもが進学や就職で出て行ってあまり帰ってこない、お年寄りしか入ってこないような地域が多い中、稲美町は進学や就職で転出しても、30代で家族になって転入する。これは、一番ベストな状況であり強みだと思う。町の強みや弱みは、データとして分析されているのか。また、弱みの改善と強みの強化、30代で家族になって転入することをより一層強化すれば稲美町は非常にベストな町で、人口減少を抑制できるのではないかと思う。そのあたりで分析していることがあれば教えてもらいたい。

事務局：地方創生の分析をする中で、国のビックデータを使用している。稲美町は転入者の受け皿として、区画整理や調整区域での地区計画などの住宅整備が活きていると思う。また、区画整理が終わってから一定期間あるので、そういった期間が経過することで今後の住宅の空いていた部分が埋まっていくと思う。

合計特殊出生率については、確かに稲美町は低い、意外と子どもの数が多い。稲美町を選ぶ人は一戸建ての広い宅地で、転入後に2人目、3人目を産んでいる傾向が見えてきている。「夢と希望をかなえる」というのが稲美町の基本理念となっているが、前回のアンケート調査結果から、高校生で転出してもいずれ戻ってきたいと思っている人の数字や、経済的な理由や家の事情による子どもの理想の数との人数差については、夢がかなえば増えると考えるので、出産や子育てをはじめとした支援に力を入れている。

委員：稲美町の人口ビジョンの推計変動を行うとのことだが、人口推計は国勢調査を基にしており、今年行われた国勢調査を基にすると随分先になってしまうので、平成27年の数字を

ベースにするのか。

事務局：P15に27年の数値をベースにした人口ビジョンの推計を載せているが、そこへ直近5年間における数字が加味されるので、最新の数値等を反映しながら人口推計の見直しを検討していきたいと考えている。

(2) 住民アンケート調査 調査結果報告書について

・事務局より、資料2の説明

(質疑応答)

委員：若者のアンケートを18歳と22歳に限定した理由は何か。もう少し幅広くとっていた場合も同じような傾向となったのか。これだけ有効回収率が高いことはすごいことであり、評価したい。高校で、これから稲美町をどうしたいかを授業で聞いたところ、本当にこのとおりだった。愛着をすごく感じているが出ていくと言う生徒が多く、愛着を持っている分野は「自然」だと言っていた。

事務局：調査目的は資料1でも説明したが、人口ビジョンの算定根拠としている。人口ビジョンの算定根拠の1つとして、一度外に出ても帰ってきたいと答えた方の数がある。18歳や22歳は進学・就職で大きな移動の転機を迎える年齢であるので、その方々に、一度外に出ても帰ってきたいと答えた方がどれだけいるのかが単純比較の材料として必要。

委員：おそらく同じ傾向になるのだろうと思うが、幅広くアンケートを行って、その結果も併せて分析しても良かったのではないかと思う。

事務局：5年前の調査では18歳に限定していたが、就職のこともあるので今回は少し幅を広げた。

委員：公共交通機関について不満に思っているようだが、現実として交通機関の改善はなかなか難しい。現在、通勤・通学している方の現状はどうなっているのか。

事務局：公共交通の現状としては、多くはバスや自転車、原付等で土山駅に行っていると想定している。公共交通を使っていると推測できる理由としては、役場の前を通っている土山駅方面のバス路線が、全国的に見ても珍しく、ほぼ黒字に近い。一般的には、神戸や大阪等の市街地の中を走っているバスだと黒字になるが、市街地から外れたところが黒字になるというのはなかなか少ないことなので、それだけ通勤・通学で乗られている利用者が多いことが推測される。

委員：バスに関しては、12月からデマンド型乗合タクシーが始まり、自宅までタクシーが来るという取組みが実施されるが、住民目線でますます使いやすくしていけば、かなり改善すると思う。

委員：一度転出して帰ってくる方の話はよくあるが、稲美町にゆかりのない方が転入して来られる数がどうなっているか気になる。

事務局：一度転出しても帰ってくる根拠となっているのが、以前、転入・転出した方に対して、どうして稲美町に来られたか、どういった理由で転出するのかについてアンケートをした時の回答結果である。それによると、町内に親が住んでいるという声がたくさんあった。転入された方全員にアンケートをしているわけではないので、稲美町へのゆかりの有無などの厳密な数字は出せないのが実情である。今後必要な数字となるので、検討していきたい。

委員長：アンケートの複数回答は、3つ等の制限付きの回答なのか。それとも無制限での回答なのか。

事務局：無制限での回答となっている。

委員長：若い方は無制限だとしっかり読んでいない方が多いので確認しておいてほしい。

委員：これから稲美町の良さをどう活かしていくか、また、ポストコロナをどう考えていくか。日本全体で見て、災害に強いというのは五本の指に入ると思う。交通の便も都市部にこれだけ近くて自然が多い。ため池が多く、全国のコウノトリの3分の1が東播磨にきている。そこをどう活かしていくか。提案したいのは、デジタル化が進む中で、SNSを使った発信の充実が必要だと思う。それから教育と医療については、教育に関して来年4月から家に持ち帰れるパソコンが1人1台支給される。魅力的な長所を、稲美町は提供できる可能性がある。医療も同じようなことができるのではないかと。また企業誘致についても、1つの視点だと思う。さらに外国の方を受け入れるという話も多かれ少なかれ出てくると思う。そういったことを稲美町がどう思っているのかが重要だと思う。

委員：稲美町に来て何が一番助かったかと言うと、役場で手続きに時間がかからないのはすごくメリットだと思う。役場に行って書類1枚取るのに時間がかかるのは、住んでいる者にとって、どんなに都会であっても不便の1つ。役場職員と住民が意思疎通しやすいことがメリットだと思う。人口を増やすことも大切だが、増やすだけではなく、住民が満足できるか、住み続けたいと思えるかが大切だと思うので、そこも考えていかないといけない。若い世代に関して、私が子育てして思うのが、普段の買い物等は車があれば困らないが、イベントや大きな買い物をする時はすべて町外に行かなければならない。また、アウトドアが流行っているので、公園やため池のまわりはもっと有効活用できると思う。もう少しBBQスペースを使いやすくするとか、イベントももっとアピールして町内外の方に来てもらえば、稲美町は住みやすそう、家を建てる時の検討に入れようと思うきっかけになると思う。アウトドアスペースは資金もあまりかからず、今あるものを有効活用できると思うので、検討してもらいたい。

【6 その他】

・事務局より、今後のスケジュール（次回の会議日程）についての説明

【7 閉会】